

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ13号

2018年4月



ギフチョウ (アゲハチョウ科)

## 目次

1. 4月の活動について . . . . . 2
2. ムシプロだより . . . . . 3
3. 自然の楽しみ方 (春) . . . . . 4
4. 特集：春の妖精・カタクリ . . . . . 5
5. 事務局より . . . . . 8
- 今月の表紙 . . . . . 8

## 1. 4月7日（土）の活動について

4月7日（土）の活動の概要です。※天候等により変更になる場合があります。

### ■ 作業の内容

第二ビオトープと花壇の整備を行います。

- ① 第二ビオトープの東側（田んぼに隣接する側）と南側（道路に面する側）の雑草を刈り取ります。
- ② 花壇は、フジバカマの枯れた茎の刈り取りとブッドレアの枝の剪定を行います。  
また、去年植え付けたカラミンサ（4株）の株分けを行います。



フジバカマ  
枯れた茎の刈り取り



ブッドレア  
枝を選定し、全体的に高さを抑えます

### ■ 観察の見どころ（カタクリと早春の雑木林）

春の観察は、カタクリの他にも可憐な花やムシたちとの出会いがあります。雑木林まで続く道を歩きながらこの時期にしか会えない生き物たちを愉しみましょう。

早春に咲く花たちは背の丈が低く小さいので目に着きにくいですが、ひとたび気が付くとこんなにたくさんのお花があるのかと驚くことでしょう。

※カタクリについては、特集ページ P5～7 を見て下さい。



## 2. ムシプロだより

### 宮崎 等さん・蓮（レン）さん・琶斗（ワト）さんの近況

親子でムシプロに参加させていただくようになって、早いものでもう3年になります。

もともと虫好きだった長男 蓮（レン）は、スタッフの皆様のおかげでさらに虫好きに拍車がかかっております。

また、生まれ変わったらテントウムシになりたいと言っている次男 琶斗（ワト）も昨年から参加させていただいております。テントウムシ以外にはあまり興味がなかったのですが、ムシプロに参加してからは、他の虫にも興味が湧き始めたようです。

そんな子供達ですが、昨年秋に隣のお宅の明日葉に蝶々の幼虫がいるのを発見しました。もちろん「飼いたい！」と言い始め、明日葉ごと幼虫をもらってきて、飼育ケースの中で飼い始めました。幼虫は食欲旺盛で、みるみる大きくなっていきました。何度かお隣さんから明日葉を追加してもらい、2週間程で蛹になりました。

蛹になってすぐに羽化するかと思ったら、なかなか羽化しない。幼虫と違って動かないので、子供達は、途端に興味がなくなってしまいました。

私だけは羽化の瞬間を撮影しようと張り切っていましたが、さらに2週間程経った頃、いつの間にかりっぱなキアゲハが・・

羽化の瞬間は見れませんでした。家族みんなでキアゲハを放蝶し、とてもよい経験ができました。

今年はどんな虫に出会えるのか、またムシプロで皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



(写真・文 宮崎 等)



### 3. 自然の楽しみ方（春）

#### ■ ムシたちの春（早春のフィールドに集まる早起きのムシたち）

草花が芽吹くと、すぐにムシたちも活動を始める。無事に冬を越したムシたちは、春の陽射しを浴びて花、草に集まり体力をつける。そして子供たちを残すために精一杯活動する。また、この季節しか見られないムシもいる。そんなムシたちを見にフィールドに出かけよう！

（写真 熊谷 義昭、吉田 義秀、西野 孝法・文 西野 孝法）

##### 成虫で冬を越したムシたち



ヒオドシチョウ  
（撮影 熊谷）



キタテハ



アカタテハ



ルリタテハ



ミツバチ

##### 季節限定のムシたち



ツマキチョウ  
（撮影 吉田）



コツバメ  
（撮影 吉田）



ミヤマセセリ



ヒロドツリアブ



コガタルリハムシ

## 4. 特集：春の妖精・カタクリ

### ■ 基礎知識



木々の葉が開かない早春の雑木林などの林床に咲く。二枚の葉の間から花茎を一本伸ばし、先端に赤紫の花を咲かせる。花期は3月中旬～4月中旬で、一年のうち約10ヶ月近くを地下で休眠する。

種から花が咲くまで7～8年かかるとされている。何年咲くのか？など、未だわからないことが多い。



- ・花びらは、6枚（外側に3枚、内側に3枚）。「がく」が無いので、外側の3枚が「がく」の役割を果たしている。
- ・めしべ：先が三つに分かれている。
- ・おしべ：6本、短いもの（3本）と長いもの（3本）がある。

### ■ 魅力

#### ① 枯葉を貫く芽

カタクリの芽は、落ち葉を貫く。なぜ落ち葉が持ち上がらないのか不思議だ。



#### ← 落ち葉を身にまとったカタクリ

落ち葉を貫いて花を咲かせたカタクリ。

「落ち葉のドレス」を着ているようにも見えるし、寒さから身を守るため「落ち葉のマフラー」を巻いているようにも見える。

こんなことを考えるのもまた楽しい！



## ② よく動く花弁（はなびら）

カタクリの花弁（はなびら）は、よく動く。観察をしていると天気によって花の開き方が違うのに気づく。

花弁（はなびら）は、日の出とともに開きはじめ、やがて反り返る。そして、日暮れとともに閉じる。群生地では、生えている場所によって日の当たり方が違うので同じ時間でも様々な開き方をしているカタクリに出会うことができる。



日の出とともに開き、  
日暮れとともに閉じる



外側の3枚から開き始める



6枚の花弁が見事に反り返った



外側に続き、内側の3枚が開き始める

### 反りすぎた？花弁(はなびら)

たまに、花弁（はなびら）が反りすぎた？ものを見かける。なかには、風車のようにになっているものまである。「元に戻るのだろうか？」と心配になる。



まるで、風車のようだ

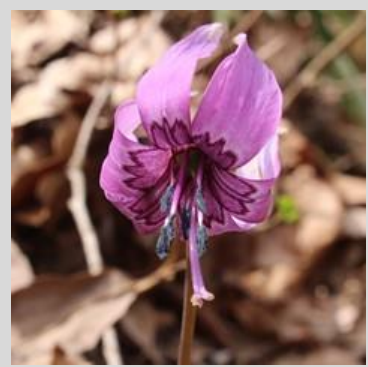
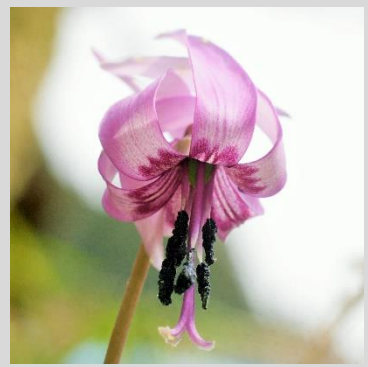
### ③ 花ごとに違う蜜標（みつひょう）



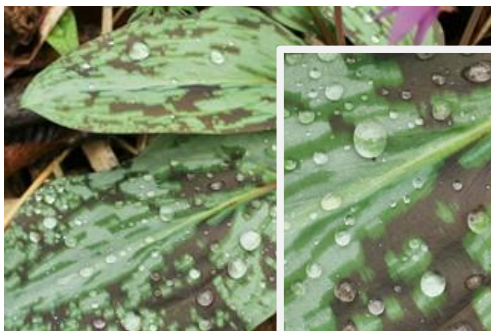
カタクリの花弁（はなびら）には蜜標（みつひょう）という模様がある。花を訪れるムシに蜜の場所を教えるためのものと言われている。

下を向いている花を地面に寝て下から覗いてみよう。蜜標は、ほぼ同じ形をしているが、よく見ると色、線の太さ、形が少しずつ違っているのがわかる。

花の入り口にある蜜標に私も誘われる。



### ④ 葉の模様（迷彩模様）



カタクリの葉の模様は、同じものが二つとない迷彩模様になっている。よく見ると紫色の模様の周りが濃い緑色の線で淵どられているのがわかる。つまり三色迷彩なのだ。

複雑な模様をじっと見ていると、「不思議な文字？」が浮かび上がってくる。

見えてきましたか？

### ⑤ 枯れ方



花の時期が終わるころ、コナラ・クヌギの若葉が大きくなり雑木林の中は暗くなる。

陽の光を受けられなくなったカタクリは、休眠の準備に入る。この時の葉の枯れ方が実に神秘的である。色が抜けて透明になり地面に吸い込まれるように消えていくのである。

（写真・文 西野 孝法）



## 5. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年4月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

### 今月の表紙



2017年4月22日にギフチョウの北限に近い新潟県下越地方で写したものです。

カタクリの花の絨毯（じゅうたん）の中でじっと待っていると一頭のギフチョウがヒラヒラと飛んできて絨毯（じゅうたん）の中にとまった。

ムシプロスタッフの吉田さんが、「西野さん、ここ！ここ！」と教えてくれる。何処にいるのか確かめようと目を凝らして見るが、なかなか見つからない。黄色地に黒の縞模様（タイガーストライプ）が周りの景色に見事に溶け込んでいるのだ。ようやく見つけて写真を2枚撮ったところでギフチョウは、ヒラヒラと飛んで雑木林の中に消えていった。僅か数秒であったがとても素敵な時間であった。



カタクリの絨毯(じゅうたん)

さらに関東では見ることのできない蜜つぼの長いスマレや白花のイカリソウも見ることができた。

画像から「口から心臓が飛び出るくらい」の私の気持ちの高まりを感じていただきたいと思う。

(写真・文 西野 孝法)



蜜つぼが長いスマレ